



みんなが暮らしやすい社会のために

「人権」という言葉からどんな印象を受けますか。「人権」は、難しいものではありません。日常生活で相手に思いをはせ、「気づき」から、自分の行動を一度振り返ってみませんか？

例えばこのような場面



●駐車場のマークが意味していることは？



- ここを利用する人に思いをはせる
- 気づき・行動へ



できる行動
障がい者等用駐車スペースには車を停めない

このほか

・道路や建物内の点字ブロックの○や□が意味していることは何でしょうか？
私たちができる行動⇒点字ブロックを塞がない(物を置かない)ようにしましょう



・何か困ってそうだなと思われる人を見かけたら「何かお手伝いしましょうか」「どうしたらいいですか」などと声をかけるなど、身近なところから行動してみましょう

12月はさまざまな人権啓発週間があり、これらの週間に関連した行事等が全国的に行われています。みやま市は講演会の開催や懸垂幕・横断幕を設置し、啓発に取り組んでいます。啓発週間を一つのきっかけに私たちができることを考えてみましょう。

※関連ページ20、21ページ

地域に頼りにされる高校に みやま市に貢献し、みやま市を盛り上げる山門高校 やま盛



生徒の感想(抜粋)
地域の課題について、私たちが考えた意見に丁寧にアドバイスをしてくださり、より深く考えることができました。自分なりに解決案を考えれば考えざるほど、たぐさんの課題が見つけられました。どんな仕事でも、さまざまな課題を解決しながら進めていかなければいけないことがよくわかりました。



地域とのつながり
「企業連携探究活動」をとおして
山門高校では、地域に学び地域で成長していくことを合言葉にさまざまな活動を行っています。その1つとして、9月に3回、地元の企業14社の方に来ていただいて直接話をお聞きしました。そこでは、地元企業が抱える課題を学び、その解決方法を生徒自身が考え、企業側に提案していくという活動を行いました。
高校生ならではのユニークな提案もあり、活気あふれる楽しい時間となりました。

みやまに生きる ひと 人 vol.121

果樹栽培

野田 和孝さん (37歳)

22歳のときに、家業である農業に携わるようになった野田和孝さん。現在は両親と3人でみかん、すもも、米を栽培しており、野田さん自身はみかんに興味を持ち、育てているとのこと。「子どもの頃から両親の姿を見て、自然と『自分もこの仕事をやるんだ』という気持ちになっていました。経験を積むにつれて、1年間の流れが分かるようになり、楽しく仕事に取り組んでいます」
日々の積み重ねでおいしいみかんを

「同業者からのアドバイスや、講習会などで得た知識を試し、さまざまな天候に対応できる技術を身に付けていきたいです」
また、1日を通しての作業日誌をつけている野田さん。読み返す中でヒントを得ることもあり、貴重な財産になっているとのこと。
「自分が作ったみかんを『おいしい』と言ってもらえることが一番のやりがいです。手間をかけた分だけ成果が表れるので、責任も芽生えてきました。他の農家と協力し合い、切磋琢磨しながら頑張ります」
みかんを通して心と体を豊かに
今後は機械の導入も考えながら、作業を効率化し、自分が主体となって農業経営者となるよう、がんばっていききたいと話す野田さん。

「みやま市は農業が盛んです。栄養が豊富な旬の作物を食べることで健康にもなれると思います。自分の作ったみかんが、食べてもらった人の心を豊かにできればうれしいです」

みやまの特産品である『山川みかん』の栽培を通して、心と体の栄養を届けていきたいと語ってくれた。



のだ かずたか
JA 青年部、市消防団に所属。
休日は子どもと公園に。
高田町亀谷。
【みやまにひとこと】
みやま市は自然が豊かで住みやすいと思います。
【好きな言葉】
継続は力なり、感謝

みやま文芸

高田町句会

一直線獲物に鷹の急降下

板橋 寿

母寝ねし安堵に一人十三夜

岩屋 清美

鳴高音あけぼの杉の天辺に

紙田 幻草

逃げるのも休み休みの枯蝸螂

猿渡 洋子

岩肌を登る灯りや蔦紅葉

西山ワカ子

石庭の浮かび輝く十三夜

野田 憲二

わが椅子に胡蝶の夢か猫小春

野田岳比古

小夜時雨ここは遊郭ありし跡

松尾 光恵